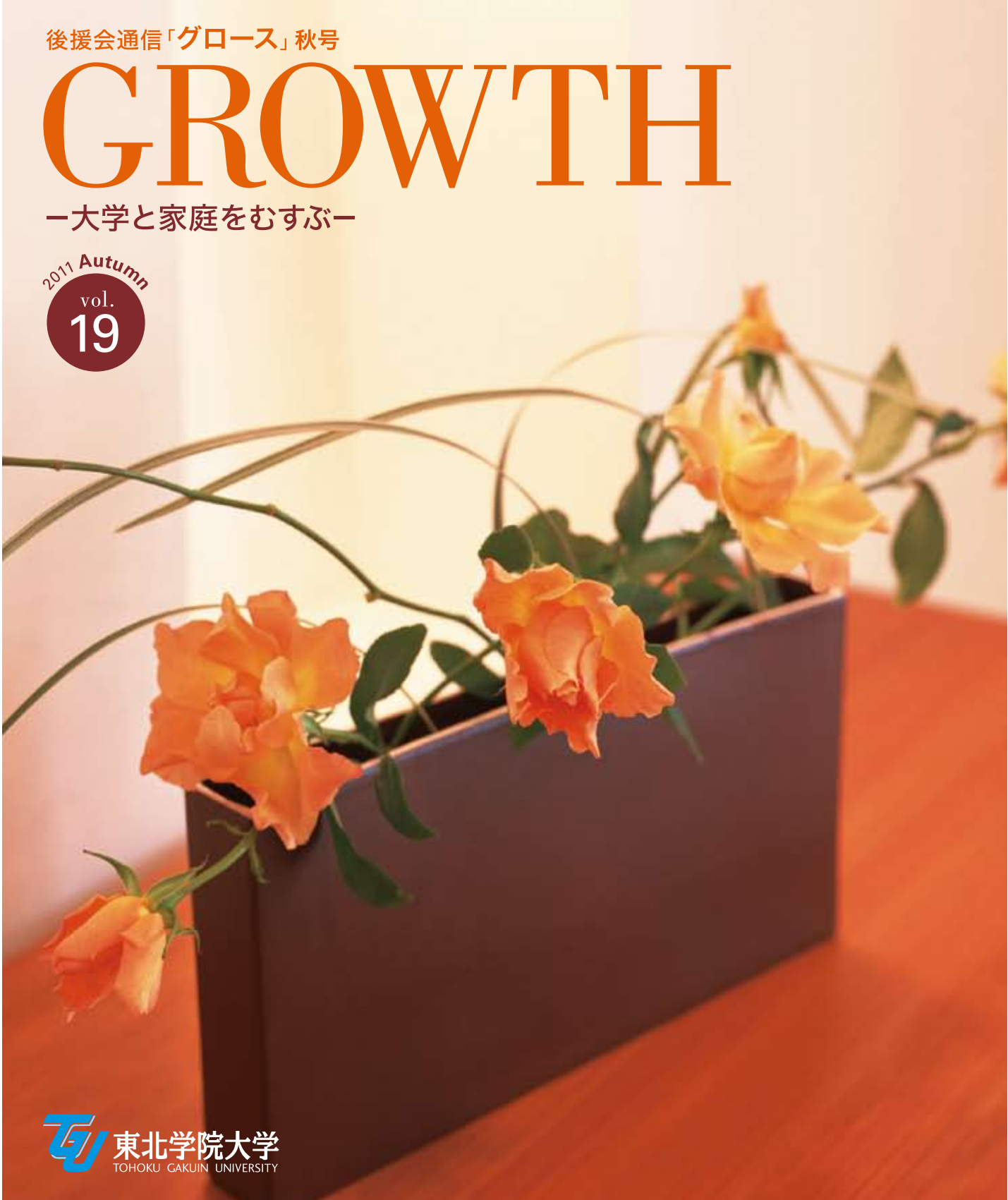
後援会通信「グロース」秋号

GROWTH

ー大学と家庭をむすぶー

2011 Autumn

vol. 19



東北学院大学
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

リレーインタビュー

12,000の瞳、12,000の輝き。

series 1

学生時代は、多くのことに出会い、
気づき、学んでいく成長の季節。
その姿には
一括りに語ることのできない
豊かで多彩な個性の輝きがあります。
今、興味をもっていること、
打ち込んでいるもの、将来の目標、
そして夢。
東北学院大生一人ひとりの
飾らない等身大の姿をご紹介します。

※本記事は2011年2月に取材したものです。
掲載予定の2011年春号は、震災の影響により内容を変更して
発行いたしましたので、今号にてご紹介いたします。

経済学部 共生社会経済学科2年 芳賀 実由さん

言葉遣いやマナー、人との振し方。内面も磨かれたチアリーダーという経験。「笑顔」の大切さも学びました。

試合の前後やハーフタイムにピッチを駆け回り、ハツラツとしたダンスパフォーマンスを披露してくれるチアリーダー。ベガルタ仙台のホームゲームに足を運ばれる方は、“ベガチア”の中に芳賀さんの姿を見つけることができるかもしれません。

芳賀さんとチアリーディングとの出会いは、高校生の時。「応援団でチアリーダーとして活動していました。大学に入ったら、地元のプロスポーツのチアチームで躍るのが目標でした」。もともとサッカー好きだったこともあり、昨年2月、ベガルタチアリーダーズのオーディションに応募。厳しい審査をくぐり抜けて見事トップメンバーの一員に選抜されました。「週に2回の練習があると聞き、正直、学業との両立が心配でした」。でも、講義が重なっても、テスト前でも無欠席。ガッツの持ち主です。「チアリーダーの役割は、ゲームを盛り上げ、サポーターやお客さまに楽しんでいただくこと。それにはまず私たち自身が心から楽しんで、笑顔でいることが大切なのです」。今年こそJ1での上位争いを、と注目と期待の高まるベガルタ仙台。ベガチアのキュートで元気な“笑顔の力”にも注目していきたいですね。

●ベガチアは1年契約。今期のオーディションにも無事合格し、引き続きトップメンバーとして活動することになった芳賀さん。スタジアムで会いましょう！

●「はい、笑顔で」のカメラマンの言葉に、とびっきりのスマイルが返ってきました。

写真提供：ベガルタ仙台

教養学部 言語文化学科4年 齋藤 亜未さん

応募のきっかけは「仙台が好き」という気持ち。1年間の得難い体験は、私を大きく成長させてくれました。

●大学では下館和巳先生の「俳優修行ゼミ」を履修。来年の卒業公演に向けて、まさに修行の日々です。

●折しも「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン（2008年10月～12月）」が展開された年。ハードなスケジュールをこなしつつ、もちろん学業との両立もバッチリ。努力家です。左は村井宮城県知事。

まちの特徴・魅力などを外部に効果的にアピールすることにより、経済効果を始め、様々な価値を取り込んでいこうというシティーセールス活動。仙台の“顔”として、シティーセールスの第一線で活躍するのが「せんだい・杜の都親善大使」です。2008年春、親善大使に選ばれた齋藤さんは、大学に入学したての新入生。初の“平成生まれ”の大使として話題になりました。

「仙台は、自然環境と都市機能のバランスがとれていて、とても住みよい街。何よりも食べ物がおいしいですし、出身地というひいき目を差し引いても、とてもすてきな街だと思います」。“仙台が好き”という気持ちを原動力に、仙台近隣のみならず全国で開催される祭り・イベントでのPR活動に奔走。テレビ・雑誌などのメディアにも登場して、仙台の魅力を爽やかにアピールしました。「年代を問わず、いろいろな人との出会いがあったことはとても刺激的でしたし、市民の方々から直接お寄せいただく声援もうれしかったです」と快活に笑顔を絶やさずお話くださる齋藤さん。感受性豊かな時期に重ねた多彩な経験は、自らを大きく成長させる糧となってくれたようです。

工学部 電気情報工学科3年 森 湧紀さん

ボランティア活動は大変なことが多いけど、その苦労をおぎなって余りある充実感、達成感があります。

北は北海道、南は中部地方から集結した170チーム（2010年）が、市内8会場で華麗で力強い演舞を繰り広げる「みちのくYOSAKOIまつり（以下“みちよさ”）」。1998年から始まった最も“後発”の祭りながら、今や「仙台・青葉まつり」「仙台七夕まつり」「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」「SENDAI光のページェント」と肩を並べる仙台五大イベントに成長しました。

賑わいのステージを陰日向になり支えているのが、市民ボランティアで構成される実行委員会。森さんは

●週に一度、実行委員事務局で開かれている定例会の様子。議長を務める森さん。

学生中心の組織「YBC」のリーダーを務めています。「観るだけではなく、観客も参加できる一体型のお祭りであることが“みちよさ”の魅力のひとつ。みんなで躍る“総踊り”の盛り上がりと高揚感は、言葉では表現できないほどです」。“みちよさ”の素晴らしさをもっと多くの人に知ってほしい…… YBCが掲げる大きな目標がさらなる知名度・認知度のアップ。そのための戦略と方策とは？ 週に一度のミーティングでは熱い議論が交わされています。

●仙台の秋の風物詩としてすっかり定着。一糸乱れぬダイナミックな踊り、独創性あふれる衣装やメイクが見事！

CONTENTS

01 12,000の瞳、12,000の輝き。 リレーインタビュー・1
03 SPECIAL ISSUE［特別企画］ 学長対談：さとう宗幸さんをお迎えして
05 後援会総会報告
06 後援会事業報告並びに予定
07 CLOSE UP［同窓生インタビュー］ イオン札幌発寒店 ホームファッション主任 三條 和志さん
09 ゼミ・研究室探訪 陶久 利彦ゼミ
11 倶楽部拝見 軟式野球部
12 CAMPUS NEWS 東北学院サテライトステーションオープン
13 学務部より 学生部より 就職部より

微風に揺れる木々の葉も徐々に色づき始め、秋の深まりを感じさせる時節となりました。このたび、後援会通信「GROWTH〈グロース〉」の秋号が完成いたしました。東北学院大学後援会の会員の皆さまにお届けできますことを感謝しております。6月の後援会総会、7月の地区後援会も無事に終え、学生が円滑に勉学や課外活動に励むための支援も滞りなく進んでおります。今後も大学と家庭の架け橋となるような誌面となることを願っております。

学長対談

さとう宗幸さんをお迎えして

さまざまな分野で活躍する方をお招きし、星宮学長がインタビューする対談企画。第4回目のゲストは、「宗さん」として抜群の知名度を誇るさとう宗幸さん。ミリオンセラーとなった『青葉城恋唄』は、仙台の名を全国に知らしめました。しかし、そこに至る道は、決して平坦なものではなかったようです……。

バンド活動をしていた長兄の影響を受けて。身近にあった音楽の息吹。

星宮　さとうさん…いや“宗さん”とお呼びしたほうが、なんとなく収まりがよい感じがしますね(笑)。宗さんには学院大OBで、毎年本学で開催しているホームカミングデーにもご出演いただき、歌とトークで会場を大いに盛り上げていただいています。宗さんと「音楽」との出会いはいつ頃だったのでしょう。

さとう　長兄が学生時代にハワイアンバンドをやっていまして、家にはギター、ウクレレ、スチールギターがありました。小学生だった私は、兄の居ぬ間に(笑)見よう見まねでつま弾いてみたりしたのが、音楽との出会いでしょうか。中学ではブラスバンド、高校ではマンドリンクラブに入部し、まさに音楽と共に思春期を過ごしました。

星宮　宗さんのお兄様と私は同世代ですね。学生時代、体育会系だった私は、残念ながら音楽とは無縁でしたが、スチールギターのことは良く覚えていますよ。なんともきれいな旋律を奏でるなぁと思ったものです。当時は、ハワイアンを始めとしてジャズやタンゴといった西洋の音楽がやってきて、若者たちの心をがっちりと掴んでいましたね。

さとう　私たちの世代は、多かれ少なかれフォークソングの洗礼を受けましたね。キャンパス内でも賑やかにギターの弾き語りをする学生がいましたが、私は自作の楽曲を静かに仲間に聴いてもらうのが好きでした。4年生の時に縁あって、仙台市内の“うたごえ喫茶”でリーダー(合唱のムードづくりをする店の看板的存在)を務めることになったんです。いわゆる唄うことで“御足(おあし)”をいただいたのはこれが初めてですね。

持ち続けた歌への情熱。仲間たちの励ましが精神的なセーフティネットに。

星宮　地元では、人気と実力を兼ね備えたセミプロの歌手として知られていたにもかかわらず、大学卒業後は音楽の道に進まずに、一旦民間企業に就職を果たされていますね。

さとう　“うたごえ喫茶”の関係者や仲間たちは、熱心に慰留してくれたのですが、私としては「歌で食べていく」という気概と覚悟がまだ醸成されていなかったのです。それに大学4年生ともなると学内は一種独特の雰囲気に包まれます。誰々がどこそこに内定したらしいよ、という話も耳に入りますし、いつまでもモラトリアムではいられないという“現実”と向き合うなかで、私も重い腰を上げざるを得なかった、というところです。夏休み明けには東京の会社に就職が決まりました。

「釣った魚は自分でさばきなさい」という母の教えを受けて育ちましたから、私も包丁使いに少しは自信があります。シャケを下ろすのもお手の物ですよ(笑)。

番組では料理コーナーがとても好評なんですよ。私が料理をするとはとても見えないらしく、街では「宗さん、意外と包丁使いがうまいんだねー」と声を掛けられます(笑)。

星宮　しかし、一年ほどで仙台にUターンされたと聞いています。音楽への夢が潰(つい)えることはなかったのですね。

さとう　不思議なことに、せっかく勤め始めた会社を辞めて帰郷し、音楽の道を歩むことに、迷いやおそれ、ためらいや逡巡は一切なかったんです。当時はっきりと意識したことはなかったのですが、そこにはハングリー精神が息づいていたのかもしれません。競争にもまれてきた団塊世代の底力でしょうか(笑)。

星宮　私の弟がちょうど団塊世代なのですが、人に依存しないで自立しようという志向が、他の世代よりも強いように思います。特異な人口構成が、パーソナリティ形成に与える影響も大きいですね。

さとう　仙台に戻ってからは再び“うたごえリーダー”をしていたのですが、そこを辞めて、ソロでコンサート活動を始めようと思った25歳の時は、さすがに覚悟を要しましたね。なにせ乳飲み子を抱えていましたし…。『青葉城恋唄』でメジャーデビューする29歳までは、口に出すのも憚られるような経済的な苦労もありましたが、歌をやめようと思ったことは一度もなかったんです。家族も何も言わずに、よく耐えてくれたと思います。同じような境遇にある仲間たちと語り合うことで、気持ち的にずいぶんと助けられましたし、がんばろうと刺激されました。このような“精神的なセーフティネット”がなければ、あるいはもっとつらい日々になっていたのかもしれません。

星宮　私の座右の銘は『苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む』(ローマの使途への手紙5章3-4節)ですが、宗さんの道程もこの聖書の言葉に重なって感じられます。自らの内に湧き上がる想いを、詩やメロディに託すシンガーソングライターの魅力も、宗さんをとらえて離さなかったのではないですか?

さとう　ええ。生意気な物言いかもしれませんが、シンガーソングライターは、世の中を俯瞰し、社会を深く見つめ、自分と向き合わなくてはなりません。そして曲づくりの原点となるのは情熱です。熱きものが伏流していなくては、人の心を響かせることはできないのではないでしょうか。

星宮　音楽を聴いて感動したり、勇気づけられることは、私たちがしばしば経験することです。音楽が脳にもたらすメカニズムと効果は、最先端の科学によって徐々に解き明かされつつありますし、実験によって証明されている仮説もあります。音楽の効果を介護や福祉に生かす試みも始まっています。まさに大きな可能性と潜在力をもつ「音楽の力」ですね。

“身の丈”以上の自分にならない、いつも自然体で。宗さん流司会者極意。

星宮　ウイークデーの夕方に放送されている情報・報道番組『OH! バンデス』(ミヤギテレビ)の司会もずいぶんと長らく務めていらっしゃいますね。高視聴率を保つ秘訣は何でしょう(笑)。

さとう　ありがとうございます。番組出演者やスタッフの熱意と努力が、数字となって現れていると思いますし、視聴者のみなさんにも心から感謝しなければなりません。実は私、リハーサルをしていないのですよ。

星宮　そうなんですか?

さとう　もちろんディレクターやスタッフは昼から綿密な打ち合わせをしています。私も当初はそうしていたのですが、たまたま市外でコンサートがあった日に本番ギリギリにスタジオに入ったんです。内容をまったく知らなかったその回は、紹介VTRなどを観た後、実に自然に作為なくコメントできたのです。私自身が(VTRを)初めて観るので、新鮮なんですね。そうした鮮度を大切にしたほうがよかろうということで、私のリハーサルはなくなりました。何事にも「身の丈で接する」「構えずに自然体でいる」ことを心がけています。信条とか信念という大げさなものではないのですが。

星宮　そうしたてらいのないおおらかさが、多くの人から愛されるゆえんなのでしょう。宗さんを始めとして、俳優、ミュージシャン、タレントとして活躍している東北学院の卒業生もたくさんいますね。

さとう　そうなんですよ。いつか学院OBOGが集まるイベントを企画してみたいなと考えているんです。僕たち一人ひとりが声高に仙台・宮城を語ることによって、少しでも故郷や母校のPRにつながればいいなと思っているんですよ。

星宮　東北学院同窓会の会長としても大いに興味のあるところです。ぜひとも実現させたいですね。今日はとても楽しいお話をありがとうございました。

さとう　こちらこそわざわざミヤギテレビまでご足労いただき、恐縮でした。またぜひお会いしたいです。ありがとうございました。

星宮　望

東北学院高等学校から東北大学工学部電子工学科へ。同大大学院工学研究科電子工学専攻博士課程修了、工学博士。長らく東北大学にて研究、教育に勤務し2001年同大副総長、2004年3月定年退官、東北大学名誉教授。同年4月東北学院大学学長ならびに学校法人東北学院理事に、2007年学校法人東北学院学院長に就任。現在に至る。1941年生まれ、仙台市出身。

さとう 宗幸

本名佐藤 宗幸。岐阜県可児市生まれ。2歳で家族と共に宮城県古川市(現・大崎市)に転居。宮城県古川高等学校から東北学院大学へ。卒業後は就職のため上京。ほどなく仙台に戻り、コンサート活動の傍ら、NHK-FM仙台などでDJを務める。1978(昭和53)年『青葉城恋唄』が全国的に大ヒット。その後俳優、コメンテーターとしても多方面で活躍。1995(平成7)年より夕方ワイド番組『OH! バンデス』(ミヤギテレビ)の司会を担当。仙台市在住。

「OH!バンデス」
毎週月～金曜 午後3時50分～

©MMT

対談の詳しい内容は**後援会ホームページ** http://www.tgu-kouenkai.org/ に掲載を予定しております。ぜひご覧ください!!

次第

日時 平成23年6月18日(土)　13時30分
会場 東北学院大学泉キャンパス礼拝堂
司会 後援会事務局長　門脇 邦知

1. 開会宣言 …… 司会者
2. 聖書朗読並びに祈祷 …… 宗教部長 佐々木 哲夫
3. 挨　拶 …… 会長 丸森 仲吾
   学長 星宮 望
4. 大学からの災害復興報告 …… 総務担当副学長 柴田 良孝
   学務担当副学長 斎藤 誠
5. 議　事
   (1)平成22年度後援会庶務報告について …… 庶務担当理事 髙橋 祥允
   (2)平成22年度後援会収支決算報告並びに会計監査報告について …… 会計担当理事 小濱 良雅
   監事 白木 進
   (3)平成23年度後援会事業計画(案)について …… 庶務担当理事 髙橋 祥允
   (4)平成23年度後援会収支予算(案)について …… 会計担当理事 小濱 良雅
   (5)その他
6. 後援会役員紹介 …… 司会者
7. 閉　会 …… 同上

議長を務める丸森会長

総会の様子

泉キャンパスに、約700名の保護者をお迎えし、平成23年度の後援会総会並びに大学開放プログラムを開催いたしました。総会で審議されました内容は次のとおりです。

(1)平成22年度後援会庶務報告について

髙橋祥允庶務担当理事より、役員人事、平成22年度役員会、平成22年度後援会総会並びに大学開放プログラム、平成22年度地区後援会実施状況について報告があり、原案通り承認された。

(2)平成22年度後援会収支決算報告並びに会計監査報告について

小濱良雅会計担当理事より報告があり、原案通り承認された。白木進監事より帳簿等が正確に整備されていることについて報告がなされた。

(3)平成23年度後援会事業計画(案)について

髙橋祥允庶務担当理事より、平成23年度後援会総会、平成23年度地区後援会について説明があり、原案通り承認された。

(4)平成23年度後援会収支予算(案)について

小濱良雅会計担当理事より説明があり、原案通り承認された。

平成23(2011)年

5月	後援会通信「GROWTH(グロース)」第18号発行
6月18日(土)	後援会総会(於:泉キャンパス)
6月	「保護者のための大学ガイド2011」発行
7月 9日(土)	地区後援会(秋田・福島)
7月16日(土)	地区後援会(山形・郡山)
7月23日(土)	地区後援会(盛岡・青森)
9月15日(木)	東北学院大生のための合同企業セミナー(於:仙台サンプラザホール)
10月	後援会通信「GROWTH(グロース)」第19号発行
12月2日(金)	後援会役員会(於:土樋キャンパス)
12月～4月	エントリーシート添削講座

平成24(2012)年

1月13日(金)～15日(日)	企業研究セミナー(於:仙台サンプラザホール)
3月26日(月)	【卒業式】(於:仙台市体育館、11:00～12:30)

※【 】内は大学主催の主な行事。予定は変更になる場合もあります。

後援会では、在学生の円滑な学生生活と大学の充実発展に寄与するため、“大学と家庭をむすぶ”をモットーに、各種事業を展開し、以下のような助成をおこなっております。

体育会、学生会、文化会等の課外活動団体への助成

東北学院大学 緊急給付奨学金への助成

東北学院大学 給付奨学金への助成

就職活動に対する助成
合同企業セミナー開催、職業人によるトークイベント開催、面接フォローアップ講座開催、企業研究講座開催、エントリーシート添削講座開催など

震災支援特別助成
東日本大震災緊急給付奨学金への助成

毎日の暮らしを彩るために。

**職場は北海道最大規模の店舗。
そこにある充足した日々と責任感。**

あの3月11日から9日後、北海道のイオン札幌発寒店に勤務する三條さんの姿は宮城県にあった。「震災で宮城県内のイオングループの物流センターも被災し、復旧作業に当たる人員募集に迷わず手を挙げました。どうにか宮城に入る手だてはないかと、居ても立ってもいられなかったですね」。そこで目にしたのは、変わり果てた故郷の風景。映像を通してある程度の覚悟はしていたつもりでも、実際に目の当たりにした被害状況には言葉を失ったという。「幸い近親者は無事だったのですが、閉鎖している店舗がかなり多く見受けられました。一刻も早く元通りになって地元の方々に利用していただきたい。その一心でしたね」。その言葉は、故郷への想いと共に、流通業界に生きる人間の実直な姿勢を表していた。イオン札幌発寒店は北海道で最大の売り場面積を誇る店舗。三條さんは5年前のグランドオープン時から、ホームファッション主任として売り場全体の管理および部下の育成に当たっている。学生時代のアルバイトを機に、「この経験を次に」と飛び込んだ流通業界。家具やカーテン類を扱うリビング担当からスタートし、寝具関係へと幅を拡げ、ホームファッション売り場全体の管理を任されるようになった今、三條さんは充実感の大きさと比例するように責任感もひしひしと感じているという。「これだけ規模の大きい店舗で主任をさせていただき、売上達成に向けた取り組みを行って成果を上げられたときは率直に嬉しく思いますが、自分はお客さま対応の最終的な責任者。以前とは責任の重さはやはり違いますよね」。

**学生時代に経験したすべてが
コミュニケーション能力を高めた。**

社員6人とパート約50人。現在、三條さんにはこれだけの部下がいる。その一人ひとりに業務を指導し、教育していく中では気苦労もあるという。「人数が多いほど人間関係は難しくなりますし、教育に関しても呑み込みの速度がそれぞれ違いますから一様にはいきません。解りやすく、噛み砕いて、とは意識しているのですが…」。人の下に付く立場から、人を束ねる立場へ。役職を重ねるほど、重用視されるようになるコミュニケーション能力。その力を、三條さんは学生時代に積み上げてきた。学祭へ向けた研究や季節行事に没頭した方言研究会でのサークル活動、就職への契機となったアルバイト、気の置けない仲間との遊びや語らい…。反面、「勉強はまったく」と当時を振り返るが、夢中になったすべてが机上に目を向けるだけでは得られない糧となった。「販売はお客さまが相手ですので、会話を楽しめなければ続けられない職業。そう思えば、学生時代の経験が活きているのかもしれませんね。会話が苦手な人もいるかもしれませんが、接客知識を覚え、継続することで必ず楽しさを感じられる。それがこの職業だと思います」。

流通業界の門を叩いてから12年余り。今後のレールは様々な方向に枝分かれしているが、三條さんには進むべき1本が明確に見えている。「商品を仕入れる商品部と、店舗の運営。ビジョンは2方向ありますが、個人的には店舗に携わりたいと思っています。毎年のステップアップ試験を一段ずつクリアして、次は課長になり、ゆくゆくは店長になり、店舗の運営を担えるようになれるといいですね」。

三條君とは5年ほど同じ職場で働いていますが、大学の後輩と知ったのは最近のこと。彼は新しい上司のタイプと感じます。高圧的な面は一切なく、親しみのある部下想いの上司像だと思いますね。非常にまじめで、チームをまとめることに専念してくれますし、今のポジションに踏みとどまらず、一気に上へ昇ってほしいですね。

岩見沢店 店長（元・発寒店 人事総務課長） 吉田 孝さん

CLOSE UP

ほとばしる情熱を流通業界に懸けて。

イオン北海道株式会社
イオン札幌発寒店 ホームファッション主任
三條（さんじょう） 和志（かずし）さん

宮城県泉高等学校から東北学院大学経済学部経済学科に入学。1999年4月にイオン（株）入社。青森、福島での店舗配属を経て、10年前に北海道へ。2006年より現任。

「法律の条文」と「価値判断」の“はざま”にあるものを見つめて。

法学部法律学科 陶久（すえひさ） 利彦 ゼミ

～法律の解釈はひとつではない。それは人によって正義観や道徳観、つまり価値判断が異なることに起因する。価値判断と論理を結びつけた裁判官の判決文、その「言葉」の背後、奥底に脈動するものを深く思索する～

この春、母校が「第83回選抜高校野球」（21世紀枠）に初出場を果たしました。うれしかったですね。元気をもらいました。

陶久利彦 教授／1954年徳島県生まれ、1972年徳島県立城南高校卒業、1982年東北大学大学院研究科博士課程後期課程退学、同年東北大学法学部助手、1986年東北学院大学法学部講師、2004年より現職。専攻は法哲学。

哲学への憧れ。法哲学との出会い。

書物が多いことをたとえて「汗牛充棟（かんぎゅうじゅうとう）」といいますが、まさに陶久先生の研究室にある蔵書は“車に積んで牛に引かせれば重さで汗をかくほどであり、家の中に積み上げれば棟木に届くほど”といった様子。それでもここに積んであるものは、これまで親しんできた万巻の書物のほんの一部。足もとまで浸食している“知の地層”を前に、まず座る場所を確保することから（失礼）、陶久先生へのインタビューは始まりました。

「私はもともと哲学への漠とした憧れがあって、大学は文学部への進学を考えていました。しかし、将来のことを考えたとき、果たして哲学を専攻してどうなるのだろうという不安があったのですね。一方で法学部であれば就職するにしても学究の道を歩むにしても、つぶしが利くという助言を聞き、考えを改めました。これは、先々のことを考慮したともいえますし、妥協したともいえますね（笑）」と法学を志した理由をお話しくださる陶久先生。東北大学法学部法律学科、同大法学研究科で学ぶうちに「法哲学」に出会います。「至極かんたんにいえば、法や法解釈に関する問題を哲学的に考察する専門分野です。私の場合は、職業裁判官が最終的な判決を下すまで、どのような論理思考的／価値判断的プロセスがあったかについて興味があります」。さて、ここからは陶久先生からの誌上レクチャーとまいりましょう。

言葉の背後にうごめくものを探る。

「古今東西の判決文に当たると、文章にあらわれている論理が理路整然としていない、前後の整合性がとれていないものが少なからずあります。なぜでしょうか。裁判官は判決を導くのに、法律の条文に拠りますが、最終的には個人の価値判断に帰着します。価値判断を適切に為すためには、論理に組み立てていくことが不可欠ですが、あいまいなまま、未消化のまま残されていることがあるのです。そこにはどういう思考と感情が働いたのか？論理の背後を見つめ、言葉の間に沈んでいる、あるいはうごめいているものを思索するのが私の研究です」。まさに言葉は思考の乗り物です。「私は学部生にも法科大学院生にも、折に触れ、言葉の大切さを説いています。しかし、高度な言語運用を身につけてほしいと願う一方で、同じように感覚や感情を大切にしてほしいとも思っています。人を突き動かすのは、論理ではなく情であることも、私たちは経験から知るところです」。

学問的に長い歴史を持つ法哲学。陶久先生が指導教官からいわれた言葉にもそれは現れています。「大学院に進んだ22歳の春、先生から『この分野は10年かかるよ』といわれました。これは『10年で一家を成す』ということではなく、『10年費やしてやっとスタート地点に立つ』という意味です。確かにドイツ留学や母校での助手を経て、私が本学に奉職したのが32歳でしたから、まさに予言のようでしたね。法哲学は古代ギリシアの議論にもみられ、数千年の歴史を持つ学問領域です。私たちの研究はまず先達の業績に学ぶことから始まります。膨大な古典テキストを読み下し、書いた人との対話を続ける。その繰り返しなのです」。そして考察と研鑽（けんさん）を積み重ねて、先行研究に少しでも新しい視点を加味することができたと思えれば、ヨシとしなければなりませんね、と陶久先生は語ります。

自己の体験を法理論へとつなげたい。

陶久先生のお話は、社会に出て思い惑う若者へのエールへと続きます。「就職の厳しい昨今です。しかし入社できたにもかかわらず、3年で離職してしまう大卒者が3割を超えるというデータもあるそうです。社会に出て自分のやりたいことを、すぐにできるわけではないと思います。どんな分野にも修業にも似た期間があるのではないでしょうか。学びも仕事も、予習→本番→復習の積み重ねが、自身の“のびしろ（可能性）”を伸ばしていくのだと私は思っています」。

最後にご自身の辛い体験を、研究者の立場から開示いただきました。「法哲学は、歴史のある学問であるとともに、極めて現代的な課題ともかかわりを持ちます。現在、取り組んでいる研究テーマのひとつに『先天性障害胎児の中絶の是非』があります。私は障害を持って生まれた二人の子どもを亡くしています。このような体験から得られた深く鮮烈な感覚を、法理論へとつないでいけたらと考えているのです。しかし、ここで注意しなければならないことは、同様の体験を持たない非当事者たちとの対話を閉ざすことです。多様な意見に向けて、言葉を紡ぎ、自分の体験やそこから導かれた考えを語り続けていくことが、法を専門とする人間の責務といえるでしょう」。

個人が日々の生活のなかで培った日常感覚、知恵、常識、道徳といったものに、法的側面を少し考慮したものを法感覚と呼ぶそうです。市民が持つ健全な法感覚を、裁判に反映するために始まった裁判員制度も3年目を迎えました。裁判員に選ばれる可能性のある有権者の一人として、自分の正義観・道徳観を改めて考えさせられた陶久先生へのインタビューでした。

1982年6月から翌年8月まで、ドイツ学術交流会（DAAD）の奨学金を受けて、エルランゲン=ニュルンベルク大学へ留学しました。当時は結婚したばかりでしたから、妻を伴い渡独しました。思い出の地ですね。ドイツの人びとはとても穏やかで親切でしたし、街もきれいで、公共交通機関のダイヤも正確。規律正しいという印象がありました。日本人にはなじみやすいお国柄なのではないかなと思います。

写真上：昨年5月に学会で訪れたドイツ。フンボルト大学（ベルリン）前にて。
写真下：奨学金の審査では、厳しい語学テストや面接（もちろんドイツ語）が課せられます。写真は苦楽を共にしたドイツ語の教科書。

MY FAVORITE

研究室で使っている初期の作品。

私のお気に入り

5年前から陶芸教室に通っています。窯出しの瞬間まで、どのような焼き物になるか分からないところが陶芸の魅力といわれますが、土をこねているうちに童心・無心にかえれるところもいいですね。陶芸の作品を評する際には「下手」とはいわず「味わいがある」と表現するのです。そうした言葉の使い方も面白いですね。私は、電動ろくろを使わずに、底板のうえにひもを巻いていく成型方法で作っています。「土台」「基層」がしっかりしていないと、形は整わないのです。これはある種の人生観にもつながるのではないかと興味深く思っています。

倶楽部拝見

軟式野球部

全国の舞台にて
昨年の全日本大学軟式野球選手権大会でも、つなぎの野球に徹し全国の強豪に挑んだ。

野球馬鹿。軟式野球部に所属する面々には、そんな言葉がよく似合う。野球が好きで好きでたまらない、楽しくて楽しくて仕方がない。しかし、勝利への渇望も忘れない。「昨年は全日本大学軟式野球選手権大会へ出場し、いい経験ができた一年でした。今年も是が非でも全国への出場切符をもぎ取り、目標は大きく、優勝を目指します」。サードを守り、打線の中軸を担う星キャプテンが力強く宣言する。

軟式野球部は、ここ10年で東日本大学軟式野球選手権大会で優勝2回、準優勝1回、全日本大学軟式野球選手権大会ベスト8など、輝かしい成績を収めている。その要因こそが、つなぎの野球。硬式と違い、軟式野球は打球が飛びにくく、1、2点が勝敗を大きく左右する。バントやエンドラン、盗塁など足を絡め、一人ひとりがつなぎ役に徹するのがチームのスタイルであり、組織的に役割りをこなすことで栄光を掴んできた。ただ、近年は他校のレベルも侮れず、全国大会への出場も一筋縄ではいかない。まずは仙台リーグで上位に食い込み、東北地区代表決定戦での優勝。そこで初めて開かれる、全国への道。専用グラウンドはなく、練習も週3回ほど。あくまで学業優先のなかで一人ひとりが自らに課題を課し、楽しみながらも勝つ野球を目指している。「うちに飛び抜けて目立つ選手はいません。だからこそチームプレーを意識して練習に取り組んでいます。そうすれば結果は自ずとついてくるはずですから」。

軟式野球部が全国の選ばれし強豪と激戦を繰り広げる。そんな光景が目に浮かぶようだ。

軟式野球部 キャプテン
星 将大さん
（経済学部 共生社会経済学科3年）

CAMPUS NEWS

東北学院の「学び」と「つながり」の拠点
東北学院サテライトステーション オープン

9月16日、東北学院発祥の地である仙台市青葉区一番町に「東北学院サテライトステーション」がオープンしました。それに先立ち9月15日、平河内健治理事長、星宮望学院長、同窓会役員、設立関係者ら約三十人が参加して開所式が行われました。

佐々木哲夫宗教部長による聖書朗読、祈祷に続いて、平河内理事長が式辞を述べ「建学の精神を基にした地域への愛の奉仕の基地として、また意義ある学びを共有できる場として、東北学院に繋がる多くの人々に気軽に活用してほしい」と期待を語り、「地域連携を一層深め、東日本大震災からの復興の一端を担える場ともなれるよう、皆さまの知恵と後押しを」と施設発展への協力を求めました。最後に、理事長、学院長のテープカットで市民に開かれた「人材育成の場」「社会貢献の場」のスタートを祝いました。

サテライトステーションは、同窓生を含む一般市民、学生、教職員、学生就職先企業などが、研修会、会議、展示会などに無料で利用することができます。今後は市民公開講座などの事業開催も予定されております。

東北学院サテライトステーション
仙台市青葉区一番町二丁目2-13　仙建ビル一階
■ 問い合わせ先／022-212-6210
■ オープン時間／平日：午前10時～午後6時 日祝：正午～午後6時
■ 定　休　日／第1・第3水曜日

学務部より

大震災後の学修機会の確保

学務部長
千葉 昭彦

大震災発生後、本学ではゴールデンウィーク前から在学生の成績発表、新入生のオリエンテーション、新年度の科目登録をスタートさせ、5月9日から全学で2011年度の授業を開始することができました。

被災3県の大学はもちろんのこと、東京等の多くの大学でも大規模な余震に対する不安から入学式を中止したり、授業開始を遅らせたりする状況にありました。そのような中、本学をはじめとする在仙大学を中心に文部科学省と大震災後の授業運営に関して交渉を重ねてきました。その過程で、大学の授業は、本来は半期15回の授業で構成されるものですが、文部科学省から補講やレポート等の課題提出、インターネットの活用などを通じて15回に相当する学修内容を充足させることを前提に授業時間の10回以上の確保と言った弾力的運営の指示を得ることができました。そこで、本学では13回の授業時間を確保し、さらにレポート等を通じて講義等の内容確保に努めるに至った次第です。

教室や体育館、諸機材などの被災も多く事業運営に不便が見られましたが、8月9日に無事に前期を終えることができました。その後の夏休み期間での修復工事等で後期の授業等の運営にはほとんど支障はなくなっています。余震の他にもさまざまな大震災の影響が今後とも考えられますが、学生の安全を確保した上で、充分な修学の機会の確保に努めていくつもりでおります。

学生部より

東日本大震災への対応

学生部長
辻　秀人

このたびの東日本大震災により被災された学生並びに保護者のみなさまに心からお見舞い申し上げます。

学生部では震災直後に体育館、礼拝堂を避難所として学生および近隣の人々を受け入れ、備蓄の毛布、水、食料を配布して安全をはかってまいりました。大学の施設設備も大きな被害を受け、夏休みまでの期間に復旧工事が行われております。

さて、講義が再開され、徐々に落ち着きつつある学内ですが、学生部は被災された学生、保護者のみなさまに対する授業料減免措置と東日本大震災緊急給付奨学金の受付窓口となっており、忙しい毎日を送っています。

授業料減免措置は被災の状況に応じて授業料を減額する制度です。東日本大震災緊急給付奨学金は被災の状況に応じて奨学金が給付されるもので、この二つ措置は重複して受けられることになっています。大学はこの二つの措置をもって被災された学生の皆さんが勉学を継続できるよう支援しています。なお、東日本大震災緊急給付奨学金は今年を含めて4年間継続されることになっています。今年度給付された方も来年度以降、厳しい経済状況が続く場合には来年度以降も給付を受けることが可能となります。

大学は復興にむけて徐々にではありますが、進みつつあります。皆様の一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

就職部より

就職活動スケジュール

平成23年度 東北学院大学後援会　役員名簿

平成23（2011）年4月1日現在

任 期（平成22年～平成24年）

●会　長 …… 丸森仲吾（仙台市）
●副会長 …… 三島卓郎（仙台市）・後藤久幸（仙台市）
●庶務担当理事 … 髙橋祥允（仙台市）
●会計担当理事 … 小濱良雅（仙台市）
●理　事 …… 寒河江満子（仙台市）・佐久間敬子（仙台市）・村山令記（仙台市）・齋藤靖（仙台市）
今野文昭（仙台市）・庄子真由美（仙台市）・菊地昇（仙台市）・武内宏之（石巻市）
桂 久（札幌市）・成田智典（青森市）・松本宏（八戸市）・小野寺久美子（秋田市）
深澤禎彦（横手市）・工藤敏納（盛岡市）・大友敏男（宮古市）・佐藤敏彦（宮古市）
及川和夫（北上市）・浦島康弘（大船渡市）・金子泰雄（山形市）・鈴木信一（酒田市）
國分容子（福島市）・只野裕一（相馬市）・福井丈夫（新潟市）

●監　事 …… 白木進（仙台市）・浅野ひとみ（仙台市）・菅野雅之（仙台市）
●顧　問 …… 平河内健治・星宮望
●参　与 …… 柴田良孝・斎藤誠・遠藤健一・原田善教・山本展雅
高木龍一郎・伊達秀文・佐久間政広・日野哲・佐々木哲夫
千葉昭彦・植松靖夫・辻秀人・前田修也・中川清和
佐々木郁子・松澤茂・佐々木文彦
●事務局長 … 門脇邦知
●事務局員 … 斎藤淳・佐藤光男・丹野光雄・佐藤勇三・高橋明・菅井研
石井勝雄・桔梗元子・海老田保夫・駒板高明・渡邊義春
草野正聡

ORGANIZATION 教学組織図

平成23（2011）年4月1日現在

大学院

- 文学研究科（博士課程）
  - 英語英文学専攻
  - ヨーロッパ文化史専攻
  - アジア文化史専攻
- 経済学研究科（博士課程）
  - 経済学専攻
- 経営学研究科（修士課程）
  - 経営学専攻
- 法学研究科（博士課程）
  - 法律学専攻
- 工学研究科（修士課程）
  - 電子工学専攻
- 工学研究科（博士課程）
  - 機械工学専攻
  - 電気工学専攻
  - 応用物理学専攻（前期課程は学生募集停止）
  - 環境建設工学専攻
- 人間情報学研究科（博士課程）
  - 人間情報学専攻
- 法務研究科（専門職学位課程）
  - 法実務専攻

学部

- 文学部
  - 英文学科　昼間主コース・夜間主コース
  - 総合人文学科
  - 歴史学科
- 経済学部
  - 経済学科
  - 共生社会経済学科
- 経営学部
  - 経営学科
- 法学部
  - 法律学科
- 工学部
  - 機械知能工学科
  - 電気情報工学科
  - 電子工学科
  - 環境建設工学科
- 教養学部
  - 人間科学科
  - 言語文化学科
  - 情報科学科
  - 地域構想学科

宗教部

図書館

- 中央図書館
- 中央図書館分室
- 泉キャンパス図書館
- 多賀城キャンパス図書館

博物館

研究所など

- 英語英文学研究所
- ヨーロッパ文化研究所
- キリスト教文化研究所
- 宗教音楽研究所
- 東北文化研究所
- 東北産業経済研究所
- 経営研究所
- 社会福祉研究所
- 法学政治学研究所
- 教育研究所
- 環境防災工学研究所
- 人間情報学研究所
- アジア流域文化研究所
- オーディオ・ヴィジュアルセンター
- カウンセリング・センター
- 情報処理センター
- 教育課程センター
- 産学連携推進センター
- 工学基礎教育センター
- ハイテク・リサーチ・センター
- バイオテクノロジー・リサーチ・コモン

東北学院大学

土樋キャンパス
大学院：文学研究科、経済学研究科、経営学研究科、法学研究科、法務研究科
学　部：文学部・経済学部・経営学部 法学部（各3・4年）、夜間主コース
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
tel 022-264-6421（総務課）
fax 022-264-3030（　〃　）

多賀城キャンパス
大学院：工学研究科
学　部：工学部
〒985-8537 多賀城市中央1-13-1
tel 022-368-1116（庶務係）
fax 022-368-7070（　〃　）

泉キャンパス
大学院：人間情報学研究科
学　部：文学部・経済学部・経営学部 法学部（各1・2年）、教養学部
〒981-3193 仙台市泉区天神沢2-1-1
tel 022-375-1121（庶務係）
fax 022-375-4040（　〃　）

東北学院大学後援会通信 GROWTH（グロース）vol.19

■本誌に関するご意見・ご要望をお待ちしております。

発行日／平成23（2011）年10月
編　集／東北学院大学後援会事務局（総務部総務課内）
発　行／東北学院大学後援会　〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 tel 022-264-6411 fax 022-264-3030
E-mail kouenkai@staff.tohoku-gakuin.ac.jp　URL http://www.tgu-kouenkai.org/
印　刷／ハリウコミュニケーションズ株式会社

○GROWTH（グロース）の意味は、「成長する」です。聖書には、「どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」（マタイによる福音書13章32節）、また、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」（コリントの信徒への手紙一3章6節）と記されています。東北学院大学の学生の皆さんが各分野において、知識や技術、教養を充分に修め、神と人に祝されつつ大きく成長するようにという期待が本誌に込められています。

【本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて】本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。
【「個人情報保護法」への取り組みについて】平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が施行されたのに伴い、東北学院大学後援会では個人情報の取り扱いについて、学校法人東北学院が制定した「学校法人東北学院個人情報保護規程」にのっとり、個人情報の適正な管理と保護に努めています。後援会事務局では、東北学院大学後援会の運営に必要な皆様の個人情報をお預りしていますが、今後も個人情報保護法に基づき慎重に取り扱って参りますので、皆様方のご理解・ご協力をお願いいたします。なお、後援会事務局で使用する個人情報の利用目的は次の通りです。
●「保護者のための大学ガイド」並びに「後援会通信“グロース”」の発行・送付　●「後援会総会」並びに「地区後援会」の案内　●その他、上記に関連する業務

RICE INK®
GROWTHは、地産地消・輸送マイレージに配慮したライスインキを使用して印刷しています。